

2009年まであと1シーズン。日の丸をつけて世界選手権の舞台に立つのは、あなたかもしれない。

## スキー0 代表になるには？

0 マガジンの読者なら2009年、スキー0の世界選手権が日本で開催されることは知っていると思う。しかし、他人事ではなく、自分にとって大切なイベントとしてとらえている人はどれだけいるだろうか。

そもそも、スキー0など自分には関係ないと決め付けるのはまだ早い。そんなあなたにも代表となるチャンスが大きく広がっているのだから。

まずは、代表枠、選考方法を含めた現状をご紹介します。

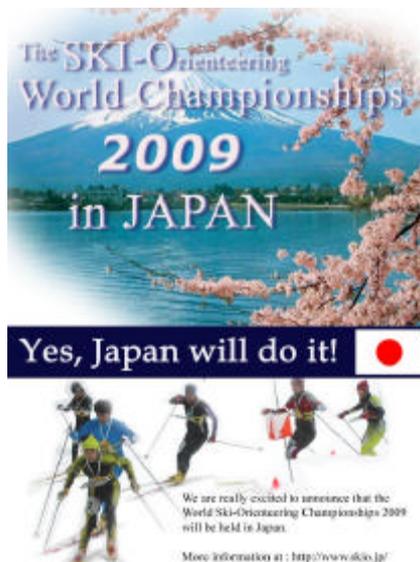
IOFのルールにより、世界選手権の選手エントリーは各国男女7名ずつである。つまり、日本代表の枠は14あるわけだ。過去の世界選手権出場歴を振り返ってみると14名フルエントリーした年は一度もない。2007年3月の世界選手権では、男子3名、女子4名というエントリーだった。国内のスキー0競技者人口に大きな変化が見られない現状では、誰にでも代表権を手にするチャンスがあるといえよう。問題はあなたが代表入りを目指すか目指さないかだ。

とはいうものの、手をあげれば誰でも代表というわけではなく、選考レースというものも存在する。2009年のための選考レースはまだ発表されていないが、おそらく今シーズンの実績や2009年の1月、2月のレースで決まるのではないかと思う。詳しくは、スキー0研究会のホームページをチェックしよう。

エントリーは男女7名ずつ可能だが、1つのレースに出場できるのは男女4名ずつとなっている。この4名を選ぶ方法は、直前のコンディションもさることながら、選考レースの結果も大きなウエイトを占めてくるだろう。では、実質日本人4番目に入らなければレースに出られないのか？というところでもない。個人戦はスプリント、ミドル、ロングの3種目行われるため、延べ12名の枠が存在するからだ。リレーでは男女それぞれ1チーム出場可能である

ため、男女3名の枠が加わる。そう考えると日本代表として北海道を駆け回るのも夢ではない。

代表を目指す人にとってひとつだけ注意しておかなければならないことがある。それはドーピングだ。日本国内レースでもドーピングの話題は上がっている、すでに気をつけている人もいるかもしれないが、国際レースともなるとアンチドーピングは絶対である。現にスキー0の世界選手権では、過去に何度か日本人選手が抜き打ち検査に選ばれている。身の回りにある、風邪薬や栄養ドリンクもドーピングの対象になるので注意が必要だ。



## 日本人選手の活躍を辛口予想

私自身、2009年を目標にする選手のひとりであるが、ここではあえて客観的に日本チームを分析し、2009年の予想をしてみたいと思う。

日本開催ということで、地の利があるのは間違いない。過去にルツツのトレインでのスキー0経験、移動距離が短く、時差のない遠征。そしてなにより、そこは日本。食事にしてもホテルにしてもすべてを知り尽くしているし、仲間も多く、サポーターもいるだろう。ひとつひとつは小さな安心感でも、それらが積み重なることによって大きなストレスをも解消し、思う存分レースに集中できる環境を作れるだろう。

自国開催は競技の成績だけでなく、オリエンテーリングの知名度アップや

マスコミ、スポンサーへのアピールの面でも大きな意味を持つ。日本人オリエンティアと世界との差を全く知らない人たちも注目を集めるわけだから、そういった人たちからも評価を得るには最低限「6位入賞」という結果を求められるだろう。

結論から言って、現状では6位入賞は不可能である。

2009年はもう来シーズンまで迫っている。現在の日本代表メンバーがこのままの成長を続けても世界のトップとの差はほとんど縮まらないだろう。参加国数の減少による順位の上昇はあっても、強豪国と互角に戦い6位に入る力をつけるのはそう容易ではない。

仕事を辞め、一年半競技に没頭する生活をつづけたとして、十人に一人がようやく世界と戦える位置にたどり着ける程度だろう。

しかし、現実的に十人のスキーオリエンティアが明日仕事を辞めて帰って来てくれるとは思えない。となれば、別の方法はないだろうか。

選手単独の努力では厳しい目標も、ひとりふたりと力を合わせ、やがてそれがチームとなったらどうだろう。1+1が2ではなく、3になることだであると思う。現状では不可能かもしれない6位入賞もチームの力が生まれれば可能になるかもしれない。メジャー競技のプロアスリートたちも、その選手を囲む周りの力があってこそ世界のトップで活躍できるのだと思う。

2009年ルツツの表彰台が夢で終わるか、歴史となるかは私たちひとりひとりに掛かっている。危機感と希望を持って前に進もう。

(堀江守弘)